

平成27年度第3回蓮田市上下水道事業審議会会議録

日時 平成28年2月9日(火)

午後2時00分～

会場 蓮田市浄水場

管理棟新館2階会議室

〈出席委員〉 門井隆会長、小林孝行委員、小船明委員、齋藤千津子委員、
佐藤嘉勝委員、田村節子委員、戸谷ひろみ委員、
早川悦夫委員、本橋稔委員、横山正巳委員

〈事務局〉 中野市長、亘上下水道部長、町田上下水道部次長兼水道課長、
細井下水道課長、川鍋水道課副主幹、小引水道課副主幹、
中田水道課副主幹、岡田下水道課副主幹、井元下水道課主査
細沼水道課主査、濱水道課主査、山田水道課主事補、
阿久津下水道課主事補

〈傍聴者〉 なし

- | | | |
|---|--------|----------------|
| 1 | 開 会 | 町田上下水道部次長兼水道課長 |
| 2 | 会長あいさつ | 門井会長 |
| 3 | 市長あいさつ | 中野市長 |
| 4 | 議 事 | |

(1) 水道ビジョンの見直しについて

- ・ 前回提示した案からの修正点について
- ・ パブリックコメント実施結果について
- ・ 経営見通し資料について

(2) その他

- | | | |
|---|------|----------------|
| 5 | 連絡事項 | 町田上下水道部次長兼水道課長 |
| 6 | 閉 会 | 亘上下水道部長 |

議事（１）についての主な質疑応答

委員：蓮田市水道ビジョン改定案の修正箇所一覧において、最適な料金体系という文言があるが、どういう認識の上でこの文言を使用しているのか。適正という文言でもいいのではないか。

事務局：最適という文言については、特に意識して使用しているわけではない。まだ修正の余地はあるので、もう一度検討させていただきたい。

委員：ダウンサイジングとは、具体的にはどのように実施していくのか。素案の中で具体的な手法が一つも載っていないが、それが素案というものか。

事務局：水道ビジョンとはあくまでも基本計画であり、計画等については文言にて提示させていただいている。具体的な管路のダウンサイジングや施設の整備計画等の細かい計画については、それぞれの業務の中で定めていく。

委員：これから先人口が減少していくにつれ給水量は減少していくはずであるが、経営試算表の中で県水の受水費がほとんど変わっていないのはどういうことか。

事務局：まず経営試算表の中で、平成31年度においては給水収益が前年度より増加しているが、これは蓮田新サービスエリアの整備により一時的に給水量が増加することを見込んだ数値である。給水量の増加に合わせて県水の受水量も増加するため、受水費が試算表の数値となった。

委員：人材育成と謳われている部分があるが、今現在蓮田市では浄水処理を行うような人材はどのように確保されているのか。

事務局：現在は民間に委託を行い運営している。

委員：職員の資質向上とは何を意味するのか。

事務局：毎年職員の中から一人、水道技術管理者という資格を取得しており、これからもそのような職員を養成する体制をとっていく予定である。

委員：水道ビジョンで謳われているような内容に対して、水道技術管理者は対応できるレベルなのか。

事務局：工務担当に若手の技術職員を積極的に配属し、その職員をこれからの更新工事に対応していけるよう育成していくつもりである。また、一般的な管工事については、人材育成の他に市の管工事組合とタイアップし、技術をお互いに高めていくことを考えている。

委員：災害時における近隣市町との連携については、水道ビジョンの中でどのように謳われているのか。

事務局：蓮田市は埼玉県東部地区に属しているが、白岡市や久喜市や春日部市、またその沿線の越谷松伏水道企業団等が中心となり、災害時における連携の協定を結ぶような流れがある。

委員：配水管の接続等はどうなっているのか。

事務局：広域化の話は出ており、最終的には広域の中で配水管等を接続していく流れにはなっていくと考えているが、今現在はまだ初歩の段階である。

委員：経営試算表の中で、資本的収支のマイナスが非常に大きい数字であるが、この数字を克服していくためにどういう対策を考えていくのか。

事務局：公営企業会計上では、資本的収支には常にマイナスが伴い、現金の支出を伴

わない費用である減価償却費等の補てん財源で補う、という仕組みであるため、資本的収支がマイナスだからといって実際に赤字というわけではない。ただし、経営試算表にあるとおり、平成33年度から収益的収支が赤字になってしまうことは事実である。この状況を打開するため、我々水道事業はこれまでに様々な経営努力を試みてきたが、そのうえで今現在の状況に至っている。今後この状況を是正していくためには最終的に収益を上げるという選択肢しかなく、そのためには水道料金の見直しについての議論は避けては通れないと考えている。

委員：老朽管の更新事業を行っていくためには非常に多額の費用が見込まれるということはこれまでの審議会の中で何度も説明があったが、全体的な費用の中でどういう影響を及ぼすのか。

事務局：経営試算表の資本的支出の中で事業費とあるが、平成28、29年度は現状維持ということで例年とさほど変わらない二億円弱の金額を計上している。それに対して平成30年度では、老朽管や施設の更新費用を計上しているため、全体で4億円程度と費用が非常に増加している。また、平成33年度には5億円を超え、それ以降は大体この程度の事業費が掛かると考えている。現行の料金体系で更新期を迎えた場合、平成33年度には収支が逆転してしまうという状況である。

委員：資本的収支の観点からみても大変な状況であるということか。

事務局：そう考えている。

委員：平成33年度から収益的収支がマイナスに転じてしまうことは理解できたが、それに対して水道事業ではどのような対策を講じるのか。ただ単に水道料金

の改定を行うだけではなく、それ以外の対策についても考えてはどうか。

事務局：水道事業としても、今後はさらなる企業努力や経営の合理化を図っていかなくてはならないと考えてはいるが、やはり水道料金の見直しをしていかないと、事業運営に支障をきたしてしまうというのが事実である。

委員：一概に企業努力といっても、水道事業は使用者が増えなくては難しいと感じるのだが、やはり最終的に水道料金の改定しかないのか。

事務局：経営試算表を基に、来年度以降審議委員の皆様方と、水道料金の見直しを含めた審議をさせていただきたい。

委員：蓮田市の水道料金は、近隣市町と比較するとどうなのか。

事務局：埼玉県の東部地区の中では、蓮田市が一番安い。

委員：県水と井戸水における維持管理費や水質はどういう風になっているのか。例えば県水の割合を変えた場合には水質や維持管理費はどう変わってくるのか。

事務局：井戸水は水質があまり良くないような状態であり、殺菌消毒のために多量の塩素を必要とするためにその分の薬品費が掛かってしまう。それに対して県水は水質が安定しているため、県水の割合が高い方が安定した水質で配水できると考えている。

委員：維持管理費等の面からみても県水の方が安いのか。

事務局：試算した結果、県水の方が安い。

委員：有収率の向上対策として、どういった取り組みをしているのか。また、今は93%程度である有収率が仮に100%になった場合には金額に換算するとどれくらいの差があるのか。

事務局：有収率に影響をもたらすのはほとんどが漏水であるため、その対策として漏水調査を毎年実施してきた結果、近年はまた上昇してきている。ただし、どうしても老朽管が多いことから、漏水しやすい状況ではある。具体的な金額については、今現在は試算していない。